

- ② 主 催 福島県教育委員会  
 ③ 期 日 昭和48年8月7日(火)  
 ④ 会 場 福島県立平盲・聾学校  
 ⑤ 参加者 37名  
 ⑥ 内 容

ア、研究協議

- 生活指導について
- 舎生会活動について
- 舎運営について

イ、講演・講師

「障害児の生活指導について」

- 茨城県立水戸聾学校長 西成田 功

### 3. 特殊教育各種研究派遣

(1) 長期研修

① 聾教育部門

- ア、期 間 1年  
 イ、場 所 国立特殊教育総合研究所  
 ウ、派 遣 福島県立福島聾学校教諭  
 持 地 安 治

エ、研修課題

「聴覚障害学幼児の教育の内容と方法について」

(2) 専門研修（中堅教員研修）

① 肢体不自由コース

- ア、期 間 3か月  
 イ、場 所 国立特殊教育総合研究所  
 ウ、派 遣 福島県立郡山養護学校教諭  
 石 橋 雄 二 郎

エ、研修内容

- 「学習障害と学習指導について」
- 「脳性まひ児の動作訓練」
- 「学習障害診断実習」「動作訓練実習」

② 病弱コース

- ア、期 間 3か月  
 イ、場 所 国立特殊教育総合研究所  
 ウ、派 遣 福島県立郡山養護学校教諭  
 林 啓 幸

エ、研修内容

- 「病弱教育の意義」「病弱児の心理」
- 「病弱児の生理・病理」
- 「養護・訓練の指導計画の立て方」
- 「教育相談参加」「心理検査法」
- 「肢体機能の訓練実習」

(3) 特殊教育教育課程地区別研究会

① 目 的

盲学校、聾学校および養護学校並びに小・中学校の特殊教育級（精神薄弱特殊教育級を除く）における教育課程に関する指導上の問題点について、地区別、部会別に研究協議し、その解明を図り、もって教職員の指導力向上と学習指導の改善に資する。

- ② 主 催 文部省  
 ③ 期 日 昭和48年7月30日(月)～8月1日(水)  
 ④ 会 場 仙台市

⑤ 派 遣

- 視覚障害教育部会 3名  
 聴覚障害教育部会 3名  
 肢体不自由教育部会 3名  
 病弱教育教育部会 2名

(4) 特殊教育学校寄宿舎指導研究協議会

① 目 的

盲学校、聾学校および養護学校の寄宿舎において幼児、児童および生徒の指導に当たる寮母の資質向上を図る。

② 主 催 文部省

③ 期 日 昭和48年8月6日(月)～8日(水)

④ 会 場 国立赤城青年の家

⑤ 派 遣

- 福島県立福島盲学校 鈴木 千枝子  
 同 郡山聾学校 田 仲 洋 子  
 同 会津聾学校 高 野 英 子  
 同 平聾学校 中 島 紀 子  
 同 郡山養護学校 熊 田 チ ヨ  
 同 平養護学校 白 土 セ ツ 子

(5) 特殊教育教育課程研究発表大会

① 目 的

特殊教育教育課程地区別研究会および精神薄弱教育課程都道府県研究会の研究成果を全国的規模において発表交換し、更に特殊教育教育課程に関する諸問題を研究協議して、学習指導の改善に資する。

② 主 催 文部省

③ 期 日 昭和49年2月5日(火)～7日(木)

④ 会 場 国立教育会館

⑤ 派 遣

- 視覚障害教育部会 4名  
 聴覚障害教育部会 4名  
 肢体不自由教育部会 3名  
 病弱教育部会 2名

## 第9節 へき地教育

本県における、へき地学校数は「第3章第6節へき地対策（へき地学校の状況、本県のへき地学校の概要）」の項のとおりであるが、県全体の学校数に対して、小学校は37.5%、中学校では25.6%をしめている。

また、その分布を地域別にみると、へき地学校全体の45%が会津方面、27%が県中南方部、20%が浜方面、8%が県北方部であり、会津方面に高度へき地指定が目立つのが本県へき地の現状である。

### 1. 複式学級担当教員研修会

(1) 趣 旨

本県の複式学級は337学級、担当教員346名で、担当教員のうちで約3分の1が新しく複式学級を担当した者である。これら複式学級担当教員に対し、複式用教科書の活用のしかた、各教科学習指導計画のたてかた、シート式磁気録音機ならびにオーバーヘッドプロジェクターの活用のし